

渡辺復興大臣宮城県訪問ぶら下がり記者会見録
(平成30年10月22日(月)16:17~16:23 於)気仙沼市)

1. 発言要旨

本日、名取市、東松島市、女川町、石巻市、南三陸町と気仙沼市を訪問し、市長、町長への復興大臣就任の御挨拶と、併せて現地視察を行いました。

生活インフラの復旧など、復興は着実に進展しておりますが、まだ完成に向けて、全力で取り組んでいる箇所も見られました。2020年度までに復興をやり遂げるという決意のもと、復興の加速化に取り組んでまいります。

石巻市においては、災害公営住宅を訪れ、被災者であります町内会長お二人の方から直接お話を伺い、心のケアやコミュニティの形成の課題など、改めて取り組むべき重要な課題があることを実感したところでございます。

気仙沼市においては、復興に関する要望をいただきました。復興庁としてしっかりと受け止めて、必要に応じた関係省庁とも連携しながら対応してまいりたいと思います。

引き続き現場主義を徹底し、被災者に寄り添いながら、被災地の振興に全力で取り組んでまいり所存でございます。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 今日、被災者との懇談の際に、復興・創生期間後のコミュニティ形成など、ケアの支援を継続してほしいという要望がありましたけれども、これにはどのように応えていかれますか。

(答) 被災者にとって大事なことは、やはり心のケア、これは期間があるわけではないのですね。したがって、私どもとしましては、しっかりこれをどのような形で対応していくかということのをこれから検討してまいりたいというふうに思います。

(問) 復興庁の関連で伺いますけれども、福島以外での支援というの位置付けが必要だと思うのですけれども、その辺りは如何でしょうか。

(答) 今様々な課題、そしてまた進捗状況を整理している段階でございますので、それを見据えた上で、方向性を見出していきたいというふうに思います。

(問) 今回の視察とちょっとずれてしまうのですがけれども、先般埼玉のエム・テックというゼネコンが倒産、破産ということになりました。

この被災地でも多くの災害復旧工事を受けていますけれども、今回の破産によって、工事に遅れが出るかもしれないという懸念が被災地

にあります。

2020年までの完遂というのが時期的にも難しくなるかもしれないのですが、そういった事態に対して、復興庁として何かバックアップであったりとか、対応というのは考えていらっしゃるか、もしあれば教えてください。

(答) 基本的には、2020年に全てをやり遂げるという決意でございますので、私の方としては、その年度におさまるように努力をさせていただきたいというふうに思います。

(問) ただ、施工業者が今回破産してしまった。工事が物理的にできなくなっているというときにあって、この一、二年半の間でその空白が長くなればなるほど、時間的にも結構厳しくはなると思います。そういったことも、今後は検討される余地はありますか。

(答) 当然のことながら、復興を成し遂げることが大変重要な課題であるということとは間違いありません。どういう形でできるかということも検討していきたいと思えます。

(問) 実際に岩手も福島も宮城も3県歩いたわけですがけれども、実際に被災地の現状として、恐らく2020年度以降も繰り越すである事業というのは、皆さん不安視しているのですけれども、その辺は実感としてどのように見えていますか、そういう事業はあると見えていますか。

(答) 実感としては、まず地震・津波の被災地の状況と原子力災害の被災地の状況、おのずとこれは異なっているというふうに思っております。

津波・地震の被災地においては、2020年度を目途に、何しろ全力で復興を成し遂げていくということが私どもの基本的な考え方でありますので、それに沿ってしっかりとやっていきます。

原子力災害の被災地については、これからという部分がございますので、その部分については、引き続き復興庁としても支援をしていかなければならない、そのように思っておるわけでありまして、私としても、原子力被災地については、まだまだ対応が必要であるというふうに感じております。

(問) そうすると、津波被災地に関しては20年度まですっぱりとやり切ると、それ以降に関しては、今後の検討ということになるのですか。

(答) 基本的にはハード、この部分については、2020年度というものを一つの大きな目標設定にしてございます。ところが、ハード以外の、例えば心のケアの問題については、まだまだこれから検討していく必要があるというふうに思っておりますので、今の段階でどうのこうのという結論づけることは、できないということだというふうに思います。

(以 上)